

レジメンcode:	C90-12
適応がん種:	多発性骨髄腫
レジメン名:	DLd療法
間隔:	4週間

備考

略名	抗がん剤(採用薬品名)	投与量	単位	投与法	投与日
	ダラザレックス	16	mg/kg	点滴[*1]	[*2]d1、8、15、22
	デキサート	20	mg	点滴	d1、8、15、22
	レブラミド	[*3]25	mg	内服(朝食後)	d1~21
	レナデックス	[*4]20	mg	内服(朝食後)	[*5]d2、9、16、23

※ダラザレックス開始前に不規則抗体スクリーニング検査を含めた一般的な輸血前検査を実施すること※

[*2]ダラザレックスは1~2サイクル(1~8週目)までは1週間間隔、3~6サイクル(9~24週目)までは2週間間隔、7サイクル(25週目)以降は4週間間隔になる。(表を参照)

[*3]レブラミドはクレアチニンクリアランス(CrCL)が ≥ 60 ml/minを超える患者には25mg、CrCLが30~60ml/minの患者には10mgで開始する。

[*4]75歳を超える又は過少体重(BMI: 18.5 kg/m^2 未満)の患者にはレナデックス(デキサメタゾン)内服を省略する事が可能である。

[*5]レナデックスは1~2サイクル、3~6サイクル、7サイクル以降と投与日が変更になるため各サイクル毎に処方日を確認すること。

連日[*6]

1) バイアスピリン	100mg	1 錠/day
アシクロビル	400mg	0.5 錠/day
	内服	朝食後

[*6]血栓塞栓症、帯状疱疹の発症予防のため上記薬剤の内服が推奨されている。

【1~2サイクル(1~8週目)】

1~2サイクル	1サイクル28日間											
	day1	day2	~	day8	day9	~	day15	day16	~day21	day22	day23	~day28
ダラザレックス(点滴)	↓	↘		↓	↘		↓	↘		↓	↘	
デキサート(点滴)	↓	↘		↓	↘		↓	↘		↓	↘	
レナデックス(経口)		○			○			○			○	
レブラミド(経口) day1~21	→											

次ページあり

【内服】

day1～21 (day22～28は休薬)

1) レブラミド	5mg[*2]	5 Cap/day
	内服	朝食後

day2、9、16、23[*5]

1) レナデックス	4mg	5 錠/day
	内服	朝食後

1サイクルday1のみ[*7]

1) モンテルカスト	10mg	1 錠/day
	内服	ダラザレックス投与1時間前

[*7]1サイクルday1のみInfusion reactionを軽減させるためにモンテルカストを経口投与すること。

day1、8、15、22

1) カロナール	500mg	2 錠/day
	内服	ダラザレックス投与1時間前

【注射】day1、8、15、22


1) デキサート	6.6mg	3 V
ポラミン	5mg	1 A
生食	50ml	1 本
	主管①	点滴 15 分 内服前投薬確認
2) 生食	50ml	1 本
	主管②	点滴 1時間
3) ダラザレックス		16 mg/kg
生食	1000ml[*8]	1 本 [*8]3回目以降は生食500mlへ変更可 (フィルター必須)
	主管③	点滴 50ml/hr→100ml/hr→150ml/hr→200ml/hr と1時間ごとに投与速度を上げる[*1]
4) 生食	50ml	1 本

フラッシュ

〈所要時間 約6時間〉

〈初回、2回目 約8時間30分〉

【3～6サイクル(9～24週目)】

3～6サイクル	1サイクル28日間											
	day1	day2	～	day8	day9	～	day15	day16	～day21	day22	day23	～day28
ダラザレックス(点滴)	↓	/		/	/		↓	/		/	/	
デキサート(点滴)	↓	/		/	/		↓	/		/	/	
レナデックス(経口)		○		○	○			○		○	○	
レブラミド(経口) day1～21												

【内服】

day1～21 (day22～28は休薬)

- | | | |
|----------|---------|-----------|
| 1) レブラミド | 5mg[*3] | 5 Cap/day |
| | 内服 | 朝食後 |

day2、8、9、16、22、23[*5]

- | | | |
|-----------|-----|---------|
| 1) レナデックス | 4mg | 5 錠/day |
| | 内服 | 朝食後 |

day1、15

- | | | |
|----------|-------|---------------|
| 1) カロナール | 500mg | 2 錠/day |
| | 内服 | ダラザレックス投与1時間前 |

【注射】day1、15

- | | | |
|------------|-------|--|
| 1) デキサート | 6.6mg | 3 V |
| ポララミン | 5mg | 1 A |
| 生食 | 50ml | 1 本 |
| | 主管① | 点滴 15分 内服前投薬確認 |
| 2) 生食 | 50ml | 1 本 |
| | 主管② | 点滴 1時間 |
| 3) ダラザレックス | | 16 mg/kg |
| 生食 | 500m] | 1 本 |
| | | (フィルター必須) |
| | 主管③ | 点滴 50ml/hr→100ml/hr→150ml/hr→200ml/hr
と1時間ごとに投与速度を上げる[*1] |
| 4) 生食 | 50ml | 1 本 |
| | | フラッシュ |

〈所要時間 約6時間〉

◎注意事項

レブラミドは、ヒトで催奇形性を示すサリドマイドによく似た薬剤であり、胎児への暴露予防を目的にその流通および使用が適正であるかを管理・評価する「レブラミド適正管理手順(RevMate:レブメイト)」が定められている。RevMateは、医療関係者、患者さんとそのご家族等、すべての方に理解し遵守していただくことが必要である。

*帯状疱疹の予防が推奨されている。ニューモシチス肺炎の予防を考慮することが必要とされている。

*ダラザレックスは混注後、15時間以内に投与終了すること。

*インラインフィルター(0.22 μ m又は0.2 μ m)を用いて投与すること。

*ダラザレックスは赤血球膜表面上に発現しているCD38と結合し、間接抗グロブリン(間接クームス)試験結果に干渉し、不規則抗体の検出に関して偽陽性になる可能性がある。(この干渉はダラザレックス治療中、及び最終投与から6ヶ月続く可能性がある。)